

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	03	02	03	0406	ニコニコ交流事業

事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返	<input type="checkbox"/> 期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	-------------------------------------------	-------------------------------	-----------------

《事業目的》
 保育・教育の充実と小学校へのスムーズな接続を図る。

《事業開始の背景》
 園の保育活動において、ごっこ遊びや集団遊びは社会生活に必要な基本的な力を身に付けていく上で必要な活動であるが、少人数の保育環境ではそれが出来ない状況となっている。

《事業概要》
【平成25年度実施内容】
 少人数の環境にある保育園と同地域内での他園保育園児との交流会を実施
 (主な内容) 集団遊び(ごっこ遊び、集団遊び等)
 (実施回数) 2園×5回 計10回

市民参画の有無 [対象外]

《事業展開の留意事項》

《成果指標》

項目	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 交流会の参加人数	人	目標		380	
		実績		369	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

分野	担当部(機関)	担当課(機関)	担当課長	(内線)
人づくり	教育部	こども課	小田中 清子	9-30-341

事業費	25年度決算	当初(現計)	補正	年度	年度
財源内訳	225				
国県支出金					
地方債					
その他					
一般財源	225				

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細を説明すること

同年齢の集団で遊ぶ喜びを知らない 集団を体験していない児童

入学後、集団生活にカルチャーショック。接続期に自信を持ってない

【参考】保育指導指針抜粋 (3.保育の原理 (2)保育の現状 『子ども相互の関係作りや互いに尊重する心を大切に、集団における活動を効果あるものにするよう活動すること。』 (☆たとえば、5歳には5歳の集まりで経験する遊びが重要☆)

グループアクト、ごっこ遊びをやったことない!

自分の遊びに小さい子がついてこれないからつまらない!

関わり方が分からない。集団が苦手

同年齢の集団遊びを通じて、適切な育ちを促す⇒ニコニコ交流事業

対象: 少人数の保育環境にある保育園の5歳児
 ①大迫地区: 内川目3人、亀ヶ森7人⇒大迫13人 ②東和地区: 浮田6人⇒上瀬6人

ステップ①: 子どもの様子を分析
 各園での5歳児の育ちを観察し、保育のねらいと集団環境下での指導展開を練る。(指導計画作成)

ステップ②: ルールを使って集団で遊びこむ
 5歳に相応しいルール(難易度設定)を用いて集団遊びを仕組む(難易度をあげて課題・トラブルを体験させ、解決する力を育む。(担任がその都度振り下げる)

ステップ③: 就学を見据えた集団活動の練習
 園児同士がコミュニケーションせざるを得ない環境設定。園児の身についた社会性のまとめ(自他の認め合い、協力して課題解決に望む気持ちの基礎づくり)。(担任がまとめ)

【事業費】①送迎バス225千円

自信安心 → **スムーズな小学校への接続**

集団経験によって社会性(一体感、自分の気持ちの調整、コミュニケーション、ルールへの意識、課題解決力)が培われる。

ニコニコ交流事業 (総括表)

平成 25 年度 事務事業マネジメントシート [事後評価]

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	03	02	03	0406	ニコニコ交流事業

総合計画	政策	地域で支える子育てと教育のまちづくり	施策	安心して育てることができる子育て支援の充実
	4		4-1	
目的	保育・教育の充実と小学校へのスムーズな接続を図る。			
対象	少人数の環境にある保育園の5歳児童			
意図	少人数の環境にある保育園の5歳児童が、就学前に集団での活動を経験することで、発達過程において社会生活に必要な基本的な力を身につけることができる。			

《事業概要》…上記目的を実現するための事業手法を記載すること

【平成25年度実施内容】
 少人数の環境にある保育園と同地域内での他園保育園児との交流会を実施
 (主な内容) 集団遊び(ごっこ遊び、集団遊び等)
 (実施回数) 2園×5回 計10回

市民参画の有無 [対象外]

市民協働の形態	<input type="checkbox"/> 共催	<input type="checkbox"/> 実行委員会・協議会	<input type="checkbox"/> 事業協力・協定
	<input type="checkbox"/> 後援・協賛	<input type="checkbox"/> 補助・助成	<input type="checkbox"/> 委託

活動指標 (上記「事業概要」に対応)	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 少人数の保育園と同地域他園との交流会の開催回数	回	計画		10	
		実績		10	
②		計画			
		実績			
③		計画			
		実績			
成果指標 (上記「意図」に対応)	単位	区分	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(計画)
① 交流会の参加人数	人	目標		380	
		実績		369	
②		目標			
		実績			
③		目標			
		実績			

要因分析

達成度 目標値より高い 概ね目標値どおり 目標値より低い

初めは、慣れない環境に戸惑いが見られた年長児たちも、回を重ねるごとに集団で活動することの楽しさや満足感、一体感を体験することができた。また、お互いが刺激し合うことで、普段とは違った心身の成長の一面が見られるなど、小学校へのスムーズな移行が期待できる。

《環境変化、意見・要望》…環境変化はないか？ 意見や要望が寄せられていないか？

卒園児の保護者から：ニコニコ交流が話題となっており、「もっと早くしてほしかった」という意見があった。

目的妥当性	公共関与の妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input type="checkbox"/> 妥当でない	就学前教育の充実、その後の義務教育等へのスムーズな移行を実現する上で非常に重要であり、公的機関(教育委員会)が、より良い方向性を示し、誘導することが重要であることから、公共関与は必然である。
有効性	成果の向上余地 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	少人数の保育園と同地域他園との交流回数が増えることにより成果の向上が期待されるが、毎年度実施により、成果の向上が期待される。
効率性	事業費・人件費の削減余地 <input type="checkbox"/> 事業費の削減余地がある <input type="checkbox"/> 人件費の削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> どちらも削減余地がない	交流会を開催する上で必要な、最低限の経費である。
公平性	受益と負担の適正化余地 <input type="checkbox"/> 受益機会の見直し余地がある <input type="checkbox"/> 費用負担の見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適正である	少人数の保育園と同地域他園の両方の園児が対象となる事業であることから、受益機会は均等である。

《総合評価》…上記評価結果の総括

少人数の環境にある保育園の年長児が小学校へのスムーズな接続を図るため、同地域内の他園保育園児と集団遊び等を実施する交流会を行い、集団での活動や他園児との一体感等を体験することができた。